

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		<p>いろいろな行事に参加することにより、地域住民との顔馴染みの関係が出来ていて、その中で、地域での利用者様の友人作りをしていきたいと考えている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今まではホーム内に職員と御家族との交換日記を掲示していたが、今後は職員と御家族との関わりをもっと深めるために、毎月一度、担当職員よりご家族へお手紙を書き郵送する。すでに実行している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>春・秋の避難訓練に役員だけでなく町内の方にも参加して頂けるよう取り組んでいきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>小規模なグループ単位での認知症への理解を深める住民への会を定期的に行なっていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>回覧板に掲示しているサテラ便りの中に認知症に対する相談を受ける窓口になっていることを明示している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>管理者から自己評価及び外部評価を実施する意義の説明を受け、評価を活かし改善や向上に取り組んでいる。又、常に職員が確認出来るようホーム内に掲示している。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>二ヶ月に一度、管理者及び職員4名・ご家族代表2名・町内会代表3名・地域包括2名・利用者様2～3名で、ホームでの活動・スタッフ研修・管理者会議等で頂いた資料を参考に報告している。その中で、意見を頂きホーム運営に活かしている。</p>		町内役員からの意見も活発に出ている。その中で、ホームと町内との連絡網を作成する事となった。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市管理者会議・西区管理者会議に参加し情報交換を行いその際、行政との情報交換も行なっている。又、西区包括支援センター運営会議にも昨年から出席させて頂き、他の社会福祉事業所との意見交換を行っており、その際得た情報を西区の管理者へ情報提供している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者や職員は、札幌市や北海道グループホーム協議会の研修に出席し学んでいる。又、出席出来なかった職員へは月に一度のカンファレンスにて報告している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者や職員は、虐待防止関連の研修に積極的に参加し、又、カンファレンス等でホームでも研修を行なっている。職員は、虐待が身体に対することだけでは無いことを理解している。(言葉の虐待・心理的虐待・経済的虐待・ネグレクト等)</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居前に契約書・重要事項説明書を説明し、ご理解頂いている。その際に、ご家族からの質問や疑問点を尋ね十分な説明を行い納得して頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情窓口を設けている。又、社会福祉協議会内運営適正委員会や、北海道国保連、北海道社会福祉協議会苦情窓口等を記載した説明書をご家族へ渡し、ホーム内にも明示している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭管理については、利用料請求時に説明文書を同封している。健康管理については、受診時・往診時に特変があれば、即ご家族へ連絡し対応を行なっている。又、定期健診の報告は来訪時やお手紙、電話にて行なっている。担当者の移動があった際にはお手紙にて報告している。		預り金の使途については、利用料請求時に内訳(レシート・領収書を添付)を載せているが、ご家族にも承諾書を頂いている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情窓口を設けている。又、社会福祉協議会内運営適正委員会や、北海道国保連、北海道社会福祉協議会苦情窓口等を記載した説明書をご家族へ渡し、ホーム内にも明示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のカンファレンスの際に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。又、管理者は月に一度職員と一対一でのコミュニケーションを図っている。		職員との月一度の面接が現実的に難しくなっているため、朝・夕の申し送りの際に職員とコミュニケーションを図っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ユニット責任者は、各利用者様担当者よりモニタリングをとり、利用者様の状況の変化に柔軟な対応が出来るようにしている。又、ご家族の状況の変化や要望に対しては管理者と各ユニットの責任者がご家族とのカンファレンスを行い、ご家族に対し柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様の精神的負担とならないように注意し、ダメージを最小限に防ぐよう職員全員で配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者は、職員の経験や能力に合わせ、適切な研修を受けさせている。又、西区の他ホームと協力し講師を招き勉強会を行なっている。</p>	<p>今年3ホーム合同にて、12月4日に宮崎直人先生によるスタッフ研修を行なう。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>西区管理者会議の中で独自のスタッフ研修を年間を通し、数度行なっている。又、当ホームを中心に2～3ホームと協力し、外部から講師を招き研修を行い、サービスの質を向上・スタッフの質の向上につながる取り組みをしている。</p>	<p>同上</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦会等でストレス解消を図っている。管理者は職員のストレスを軽減するために話をする機会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員個々に合った認知症ケアのアドバイスをしている。(本・DVDを貸し、又助言を行なっている。)</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者様やご家族から生活歴や略歴を聴取し、入居前に何度か面談しご本人自身が求めている事等を受け止める努力や、少しでも不安を取り除く努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>グループホームでの生活を理解して頂き、ご家族の望む生活が少しでも出来るように努めている。その際、ご家族の協力も重要である事も同時に説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時、ご家族に生活歴・ライフストーリー等をアセスメントし、利用者やご家族の求めている事を把握し、必要とする支援を見極められるよう取り組んでいる。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活歴やライフストーリーを考慮しながら、ユニット責任者と各利用者様担当者が中心となりご本人の感情の変化を把握しながら安心出来る環境作りに取り組んでいる。又、ご家族や以前の担当であった介護支援専門員から助言を頂き支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員はご本人の出来る事出来ない事の見極めを行い、可能な範囲で居室やホーム内の掃除・調理・買い物等を一緒に行なっている。その中で、調理方法や掃除の仕方等を教えて頂いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	当ホームは、敬老会・家族の会・クリスマス会等の行事にご家族にも参加頂き、ご本人を中心に支える立場の関係作りを築き、喜怒哀楽を共有出来るよう取り組んでいる。		今年からは、利用者様やご家族と一緒に漬物を漬けている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご本人とご家族の関係の情報を集め、ご本人がご家族へよせる思いを伝えたりご家族からの思いをご本人に伝えたりしている。又、管理者はご本人のみならずご家族の相談にもその都度のるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居の際は出来る限り馴染み親しんだ家具を持ってきて頂いている。又、ご家族からご自宅で生活していた際の人間関係なども伺い、出来る限り途切れないよう努めている。面会の制限もしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人ひとりの性格をアセスメントする事により、利用者様同士が日常生活の中で助け合い、支え合う事が出来るように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	管理者は、サービス終了後でも利用者・ご家族に必要とされれば、親身になり相談に応じている。職員にも日頃からそのように指導している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望・意向に耳を傾けご本人の状況を踏まえた上で、管理者・職員が相談の上、希望にそよう取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、利用者様・ご家族から情報提供して頂き、それをアセスメントシートにおとし、管理者・職員が共有出来る仕組みをとっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の個人日誌・生活日誌・朝夕の申し送り・職員同士での連絡ノート(日常的・身体的)等により、一人ひとりの日常の過ごし方・身体状況の変化の情報を職員が共有出来るようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各利用者様担当者により、毎月個々のモニタリングを作成し、計画作成者・管理者と話し合いを行い、介護計画作成に繋げている。又、カンファレンスで全体職員と話し合いを行い、担当者以外の意見も反映している。ご家族からは、居宅サービス計画書(1)を返送して頂く際にご家族の意見をそえて返送して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	管理者が常に現状の変化を把握し、介護計画者・職員へのアドバイスをこなしている。計画の見直しは、三ヶ月に一度だが変化時にはもちろん月一回のカンファレンス時にも利用者様の変化に応じて随時計画を見直すよう取り組んでいる。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルを整備し、日々の記録も整備されている。情報も、職員全員が共有し実践や介護計画に反映されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの柔軟な機能性をいかし、利用者様一人ひとりの要望に応じている。		個別の外出・外食・旅行の付き添いはすでに行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内との交流を図ったり、年二回の定期的な避難訓練の実践を行なっている。又、区役所からの見学や他施設からの研修の受け入れにも取り組んでいる。ホーム内の行事の際には、ボランティアの協力もお願いしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の必要性に応じて、他事業所のサービスも利用している。		手芸・麻雀など、月ごとに催し内容の違う、町内の老人会に参加している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの運営推進委員会に参加している。又、二ヶ月に一度の運営推進委員会の際に地域包括支援センターの参加も定着されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の受診、二週間に一度の往診、一週間に一度の訪問看護等の活用を行っている。その中で、日常の健康管理、医療相談等の支援を仰いでいる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医ではないが、アドバイスを頂ける医師がいる。又、心療内科の相談員と定期的にお会いしアドバイスを頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週一度定期的に訪問看護を実施している。その際に日常の健康管理と医療活用の支援を行っている。		入居者様の重度化に伴い、職員に一人ひとりの入居者様の変化によって不定期的に身体のケアの指導も行っていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	個人情報保護法により医療機関からの情報提供が徐々に困難になってきているが、ご家族を交えて医療機関と連携を取り情報交換を行なっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居される際、重度化の指針や看取りの指針を提示し、ご家族へ説明している。又、利用者様の身体に伴い、ご家族・Dr・訪問看護・管理者・スタッフを交えて話し合いを行なっている。		定期的に(年二回)今後の対応を話し合っていくようにしたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の高齢化に向け重度化が進む中、看取りは着実に考えていかなければならない課題なので、研修や勉強会等に出席し、今後の変化に対応出来るよう取り組んでいる。		訪問看護に来られた際に、訪問看護師によりミニ研修を10～15分位で行っていただき、職員に対し実施していく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人の精神的負担にならないよう配慮し、ご家族、関係機関との情報交換を行なうことにより、利用者のダメージが最小限に留まるように支援している。</p>		<p>やむを得ず、他施設・病院に移る場合は、紹介はもちろん手続きの全てはホームで行っている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員には入社時、個人情報等を他にもらさないと言う誓約書を提出してもらっている。又、利用者様一人ひとりを人生の先輩として尊厳をもち対応している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の生活歴を通し、趣味・得意な事をふまえて希望にそうよう働きかけている。又、利用者様に合った声のトーン・言葉掛けを行い、上手く言葉が出てこなくてもゆったりと待つ姿勢と傾聴を心掛け、能力を伸ばせるよう働きかけている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>常に利用者様主体で話し合い、日々の生活を利用者様のペースで暮らせるよう支えている。又、一人ひとりの能力に応じて選択の幅を考え、場面の提供を行い、答えを急がせず待つ姿勢を大切にしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節や気候、好みに合わせた装いの手伝い・支援に取り組んでいる。又、ホームに月一回訪問美容に来て頂いているが、利用者が希望する時はご本人の望む、理容室・美容室に行けるよう努めている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>可能な範囲で、買い物・調理を手伝って頂き、その際、調理法や味付け等を教えて頂いたり、利用者様と共に行なえるように工夫をしている。又、テーブルのセッティング・食後の片付け等も、一人ひとりの能力に合わせて行なって頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	成人病により、食事制限のある場合は嗜好の量の制限はあるが、ホームの買出し時にご本人の嗜好に合わせたおやつを買われたり、外食時にビール等をその都度飲まれたり、食後のタバコを吸われたりと、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを知り、時間誘導を行い自発的動作があった時には、さりげなく支援を行っている。その事により、尿とりパット・リハビリパンツの利用者が減っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週二回の入浴日は決めているが、出来る限りご本人のご希望に沿った形で入浴をして頂いている。その際、入浴前にはバイタルチェックを行い健康チェックも行なっている。(例:就寝前入浴・利用者様同士の混浴・毎日の入浴)		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活のリズムを整え夜間良眠して頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の出来る事をさり気なく見守り、職員と一緒に掃除・調理・洗濯物たたみを行っている。又、玄関前の雪かき・花壇の整備・農園での野菜作り・ゴミだしや郵便物の取り出し等、好きな事と出来る事の役割、場面作りを取り組んでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様一人ひとりの希望に応じて自己管理を行なったり、事務所で管理を行い支払っている。利用者様の管理が不十分でも自らお金を持ち職員が付き添って買い物をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の希望にそって出来る限り外出している。又、ホーム前での日光浴・ホーム周辺の散歩・ドライブ等を支援させて頂いている。出来るだけホーム内だけで過ごさずに戸外へ出かけられるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月のお食事会の際にホテルのバイキング、普段では行けない外食の場へ行ったり、ミニ旅行(旭山動物園)、海へのドライブ、ホテルでの敬老会等、多くの機会を作り外出の支援をさせて頂いている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を使用したり、日常的に利用出来るようプライバシーに配慮している。又、二階踊り場に公衆電話を置き自由に使用して頂いている。お手紙等書かれる方は、職員と共に郵便局へ出しに行かれる等の支援もしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は設けておらず、いつでも自由に訪問して頂けるよう支援している。玄関も一切施錠なく、面会簿も当ホームでは設置していない。ご家族のご希望によっては宿泊も出来るよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の意味を理解し、身体拘束のないケアを実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の入り口に鈴を付け目だけではなく耳でも確認出来るようにしており、日中は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者様のプライバシーに配慮しながらのケアに取り組み、事故のないよう見守り、所在の様子を確認しながら支援している。又、リビングには常に職員がおり、利用者様の個々の動きや状況を把握出来るようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品の保管場所は統一し明確であり、職員全てが把握している。(包丁等は夜間、ふた付きケースに入れ保管している)		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員が利用者様の身体状況や心理状況を理解し、一人ひとりの対応に取り組んでいる。(職員連絡ノートを使用)		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットに緊急マニュアルを設置している。ホーム内で救急救命講習を年一度必ず実施し、職員に応急処置や初期対応の訓練を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回避難訓練を実施している。その際、利用者様・職員・ご家族・地域住民も参加している。ホーム内に緊急時の為の食品・避難用具等を設置し、定期的に点検を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	常にご家族との連絡をとり、話し合いの機会を設けている。Dr・訪問看護師・ご家族・管理者でリスクに対する対応策等を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的を受診・往診をし、状態の把握を行なっている。又、週一度の訪問看護により、日々の健康管理チェックを行なっている。職員全員が把握出来るように、毎日の日誌以外に受診・往診の際のDrからの指示をファイルにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別のファイルの中に薬表が綴じられており、常時職員が把握出来るよう設置されている。服薬が変わった際は、連絡ノートにて職員が情報を共有出来るようにしている。夜勤者が次の日の薬をセットする(朝・昼・夕分けて)		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排泄チェック、水分補給、軽度な運動(散歩・筋トレ・廊下歩行etc)の支援を実施している。又、食材の工夫等をし便秘時には、訪問看護師による処置を行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の義歯洗浄、歯磨きの見守り介助を行い、日常的に支援している。又、定期的に訪問歯科医師による口腔内のチェックをして頂き、口腔内の清潔保持を支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人ひとりの食事量・水分量を毎日チェックし、利用者様一人ひとりに合わせた食事量、盛り付けを工夫し、咀嚼・嚥下機能に合わせた食事を提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様・職員全員がインフルエンザ予防を毎年摂取している。ホーム内には感染予防の対応マニュアルを設置し、職員の意識付けを行っている。又、ホーム内の清掃時、トイレのノブ・蛇口・手すり等利用者様が随時触れる箇所の消毒の徹底、台所の片付け後の消毒の徹底を行なっている。又、外出後のうがい手洗いは、利用者様・職員共に厳守して行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所専用のエプロンの設置、台所の消毒、布巾・まな板の消毒の徹底、冷蔵庫・洗濯機は定期的に消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の入り口は、緩やかなスロープになっており、暖かい日はベンチ等で過ごせるスペースがある。建物の周囲は草花を植えるスペース等を確保している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下の壁には、行事で写した利用者様の楽しそうな写真を飾ったり、植木鉢や金魚の水槽をさり気なく置いたり、又、季節毎に四季を感じるように額の中に花等を飾ったりとして、家庭的な雰囲気にならざるよう取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはそれぞれ思い思いに過ごせるソファーや和室を設けたり、廊下や階段の踊り場には椅子を設置し、一階二階の利用者様同士で過ごせるよう、工夫している。又、スタッフルームを利用者様に開放している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたくしたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には使い慣れたタンス・仏壇・ご家族の写真等を飾られ、その方らしい居心地の良い空間となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入替えや、室内の温度・湿度を湿度計を使用し管理している。夜間も湿度計、利用者様の体温をこまめに観察し、温度管理を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・トイレ・階段に手すりが設置され、浴槽内には滑り止めマットを使用し、安全に努めている。廊下の幅も広く、車椅子同士ですれ違う事が可能なスペースをとっている。又、階段の高さもお年寄りに合わせて低く設置されている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様が使用している物等の位置を変えず、混乱を招く事のないようにしている。混乱が見られた環境に対してはすぐに対応している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周囲には、小さな花壇やプランタンの花やベンチ等を設置し、夏にはバーベキューやミニイベント等を楽しんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>① 常に利用者様の思いや願いを暮らしの中に取り込んではいりますが、成人病による食事制限により、ご本人の意向にそえない事もある。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① ゲームやカラオケを楽しんだり、その人に合わせた対応でゆったりと過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 毎日の生活の中で、利用者様一人ひとりが穏やかな表情で過ごされている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 日常での支援はもちろん行事や外出(お風呂の会・ミニ旅行)等を実施時笑顔や、その時々を楽しむ姿に生き生きとした表情が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 利用者様のその時の身体状況にもよるが、利用者様の意見にそうように支援している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 定期的な医療機関への受診・往診、急変時の開業医の往診、又週一度の訪問看護による健康チェック等により、早期発見早期治療が出来ているので、利用者様の健康が守られている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 利用者様の状況や要望に対して適切な対応をとっている。又、大きな状況の変化があった際には、カンファレンスにより話し合い支援を行なっている。その事により、利用者様一人ひとりの表情に束縛のない安らぎのある暮らしが見える。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>① 管理者は定期的にご家族からの不安や要求を聴き取り、的確なアドバイスを行い、信頼関係を築き上げている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③ 地域の方が個人的に訪れる事は少ないが、町内主催の敬老会や果物狩り等に参加したりしている。又、運営推進委員会を始めてからはホームに時より訪れてくれる事が増え、カラオケセットや知恵の輪等を寄付してくれたりするようになった。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>① 運営推進会議で町内の回覧板にホーム便りを載せて頂くようになったり、イベントへの参加やお招きを頂く等、理解者や応援者が確実に増えてきている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 多種類の講演会・勉強会への参加を進め、職員の質の向上に取り組んでいる。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 利用者様の出来る事出来ない事を把握し、見守り、共に生活をしている。又、一人ひとりの能力を見極め支援に取り組んでいる。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① 面会時のご家族の明るい表情や、利用者様の穏やかな姿に感謝の言葉を頂ける。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

楽しく生活していただきたいので、様々な所への外出や行事で楽しんで頂いています。又、地域で孤立した状態にならないよう、町内の行事に積極的に参加し、又、ホーム行事に参加して頂く事により、より良い関係を築くように努めています。

管理者の認知症支援に対する認識と向上心に対する強さ。その事により、職員の認知症に対する理解が高まっている。